

業績一覧

佐伯 真一 (さへき しんいち)

○略歴

- 一九七三年三月 麻布学園高等学校卒業
- 一九七三年四月 同志社大学文学部文化学科（国文学専攻）入学
- 一九七六年三月 同 前 卒業
- 一九七六年四月 早稲田大学大学院文学研究科（日本文学専攻）博士前期課程入学
- 一九七七年三月 同 前 中退
- 一九七七年四月 東京大学大学院人文科学研究所（国語国文学専攻）修士課程入学
- 一九七九年三月 同 前 修了
- 一九七九年四月 同 前 博士課程進学
- 一九八二年三月 同 前 単位取得退学
- (学位称号 博士（文学） 一九九七年九月、東京大学）
- 一九八二年四月 帝塚山学院大学文学部日本文学科専任講師
- 一九八五年四月 同 前 助教授
- 一九九〇年四月 国文学研究資料館整理閲覧部助教授（参考室長）
- 一九九五年四月 青山学院大学文学部日本文学科助教授
- 一九九九年四月 同 前 教授
- 二〇一〇年五月 日本文学科主任（二〇一二年三月まで）
- 二〇一八年五月 青山学院大学総合研究所副所長（二〇一九年三月まで）

二〇一九年四月 青山学院大学文学部附置人文科学研究所周長（二〇二二年三月まで）
二〇一九年七月 説話文学会代表（二〇二一年六月まで）
二〇二一年四月 青山学院大学文学部附置人文科学研究所周副所長（二〇二二年三月まで）

佐伯 真一主要著作等目録

※延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈 第一本（巻一）～第六末（巻十二）・別巻』（汲古書院二〇〇五年～二〇二二年）は、個人の名を冠する書ではないので、この目録からは除いた。

○単行本（単著・編著・責任編集）

（単著）『平家物語遡源』（若草書房・一九九六年九月）

（単著）『三弥井古典文庫・平家物語（上）』（三弥井書店・一九九三年三月。当初は福田晃・小林美和との共著となる予定だったが、二〇〇一年九月刊初版第四刷より単著に変更）

（責任編集）『朝日百科 世界の文学 いくさがたりとつわもの譚』（朝日新聞社・二〇〇〇年一月）

（単著）『三弥井古典文庫・平家物語（下）』（三弥井書店・二〇〇〇年四月）

（単著）『戦場の精神史―武士道という幻影―』（日本放送出版協会・二〇〇四年五月）

※第三回角川財団学芸賞受賞、二〇〇五年二月

→韓国語訳『무사도』(武士道は無い)（金炳斗訳、LivingBooks＝大韓民国・二〇一一年一〇月）

（単著）『物語の舞台を歩く―平家物語』（山川出版社・二〇〇五年二月）

（単著）『建礼門院という悲劇』（角川学芸出版・二〇〇九年六月）

（編著）『中世文学と隣接諸学・三 中世の軍記物語と歴史叙述』（竹林舎・二〇一一年四月）

（単著）『赤間神宮叢書・建礼門院と安德天皇』（赤間神宮・二〇一五年四月）

（単著）『SAMOURAIS』（フランス語。PIERRE-FRANÇOIS SOURYRI訳、ARKHE社＝フランス・二〇一七年九月）

（単著）『武国』日本―自国意識とその罫―（平凡社新書・二〇一八年一〇月）

↓中国語訳『日本〱武国〱意識的陥穽』（霍君訳、新星出版社〱中華人民共和国・近刊予定）
〔单著〕『軍記物語と合戦の心性』（文学通信・二〇二一年四月）

○単行本・雑誌（共著・共編・責任編集）

- 〔共著〕『校本保暦間記』（和泉書院・一九九九年三月）（共著者〱高木浩明）
〔共編〕『日本文学研究論文集成 平家物語・太平記』（若草書房・一九九九年七月）（共編者〱小秋元段）
〔共著〕『四部合戦状本平家物語全釈・卷六』（和泉書院・二〇〇〇年八月）（共著者〱早川厚一・生形貴重）
〔共著〕『四部合戦状本平家物語全釈・卷七』（和泉書院・二〇〇三年六月）（共著者〱早川厚一・生形貴重）
〔共著〕『四部合戦状本平家物語全釈・卷九』（和泉書院・二〇〇六年九月）（共著者〱早川厚一・生形貴重）
〔共編〕『平家物語大事典』（東京書籍・二〇一〇年一月）（共編者〱大津雄一・日下力・櫻井陽子）
〔共著〕『四部合戦状本平家物語全釈・卷十』（和泉書院・二〇一二年一月）（共著者〱早川厚一・生形貴重）
〔共著〕『四部合戦状本平家物語全釈・卷十一』（和泉書院・二〇一七年一〇月）（共著者〱早川厚一・生形貴重）
〔共著〕『人生をひもとく 日本の古典 一〇六』岩波書店・二〇一三年六月一〇月（共著者〱久保田淳・鈴木健一・高田祐彦・鉄野昌弘・山中玲子。全六巻を共同執筆。第四巻『たたかう』二〇一三年九月刊を編集）
〔共著〕『伝承文学注釈叢書一 予章記』（三弥井書店・二〇一六年一〇月）（共著者〱山内讓）
〔責任編集〕『日本文学研究ジャーナル』一一号（特集「軍記物語研究の現在」、古典ライブラリー・二〇一九年九月）（共編者〱小秋元段・櫻井陽子）

○論文・その他

- 『平家物語の因果観的構想―覚一本の評価をめぐる―』（『同志社国文学』一二号、一九七七年三月）
『平家物語蘇武談の成立と展開―恩愛と持節と―』（『国語と国文学』五五巻四号、一九七八年四月）
『平家物語燕丹説話の成立』（『軍記と語り物』一五号、一九七九年三月）
『延慶本平家物語の清盛追悼話群―「唱導性」の一断面―』（『軍記と語り物』一六号、一九八〇年三月。『日本文学研究大成・平

家物語Ⅰ 国書刊行会・一九九〇年七月再録)

「平家物語構想論の可能性」(『同志社国文学』一七号、一九八一年三月)

「平家物語諸本の翻刻・影印一覽」(『国文学解釈と鑑賞』一九八二年六月)

「平家物語全章段の〈解析〉・卷三」(『別冊国文学・平家物語必携』学燈社・一九八二年八月)

「無常の和歌と『方丈記』」(『帝塚山学院大学研究論集』一七集、一九八二年二月)

「平家物語本文における継承と創造の問題」(『伝承文学研究』二八号、一九八三年一月。『日本文学研究資料新集・平家物語―語りと原態―』有精堂・一九八七年五月再録)

「平家物語の因果観」(『日本文学』三三卷四号、一九八三年四月)

「『平家物語』の『愚管抄』依拠―四部本研究の予備作業として―」(『帝塚山学院大学研究論集』一八集、一九八三年十二月)

「四部本平家物語試論」(『軍記と語り物』二〇号、一九八四年三月)

「平家物語と説話の機能」(『日本文学』三三卷四号、一九八四年四月)

「重衡造型と『平家物語』の立場」(『国語と国文学』六二卷九号、一九八五年九月)

「『平家物語』古態論の方法に関する覚書」(『帝塚山学院大学日本文学研究』一七号、一九八六年二月)

「平家物語テキストの位相・四部合戦状本」(『国文学解釈と教材の研究』一九八六年六月)

「研究余滴・四部合戦状本『平家物語』と編年体」(『日本古典文学会会報』一一一号、一九八六年十二月)

「『平家物語』の『方丈記』依拠」(『帝塚山学院大学研究論集』二二集、一九八六年十二月)

「『平家物語』の『都遷先蹤』」(『帝塚山学院大学日本文学研究』一八号、一九八七年二月)

「四部本平家物語の最終的改作をめぐる」(『国語と国文学』六四卷三号、一九八七年三月)

「有王説話と冥界訪問譚」(『リポート笠間』二八号、一九八七年一〇月)

「(幸若舞曲注釈)腰越」(『幸若舞曲研究』第五卷、一九八七年二月)

「『予章記』雑考」(『帝塚山学院大学研究論集』二二集、一九八七年二月)

「『平家物語』と『予章記』」(『帝塚山学院大学日本文学研究』一九号、一九八八年二月)

「四部本平家物語と『新樂府』『西涼伎』」(『帝塚山学院大学日本文学研究』二〇号、一九八九年二月)

「四部本平家物語の頼朝拳兵譚をめぐって」(『帝塚山学院大学日本文学研究』二二号、一九九〇年二月)
「將軍」と「朝敵」——「平家物語」を中心に——(『軍記と語り物』二七号、一九九一年三月)

「平家打聞」と古今集注釈——「玉泉房」と「人丸本地」——(『日本古典の眺望』桜楓社・一九九一年五月)

「翻刻・紹介 八戸市立図書館本『古今和歌集見聞』」(『国文学研究資料館紀要』一八号、一九九二年三月)

「源頼朝と軍記・説話・物語」(『説話論集・第二集』清文堂・一九九二年四月)

「殿上闇討」の語義(『延慶本平家物語考証・二』新典社・一九九二年五月)

「三井寺炎上の実態について」 同前

「雪山」の鳥と維盛 同前

「寿永年間頼盛関東下向について」 同前

「副將の年齢とその母」 同前

「悪別当経成」のこと 同前

「いくさがたり」論の展望(『平家物語と語り』三弥井書店・一九九二年一〇月)

「軍記物語と説話」(『説話の講座・第六卷 説話とその周縁——物語・芸能——』勉誠社・一九九三年三月)

「夷狄觀念の受容——『平家物語』を中心に——」(『和漢比較文学叢書・一五 軍記と漢文学』汲古書院・一九九三年四月)

「宗盛上表」試解(『延慶本平家物語考証・二』新典社・一九九三年六月)

「金渡」施入状の本文とその周辺 同前

「普通唱導集」の将棋関係記事について——鎌倉後期の「小将棋」と「大將棋」(『遊戲史研究』五号、一九九三年一月)

「勸進聖と説話——或は「説話」と「かたり」——」(『平家物語説話と語り あなたが読む平家物語・二』有精堂・一九九四年一月)

「白氏文集と平家物語」(『白居易研究講座・第四卷 日本における受容(散文篇)』勉誠社・一九九四年五月)

「延慶本『平家物語』の〈編集錯誤〉について——第一本・三院崩御記事を中心に——」(『延慶本平家物語考証・三』新典社・一九九四年五月)

「興福寺・東大寺牒状注解」(『延慶本平家物語考証・三』新典社・一九九四年五月)

「アノ御方」小考

同前

「畜生道」語りと『宝物集』 同前

「足摺」考―『平家物語』を中心に―（久保田淳編『論集中世の文学・散文篇』明治書院・一九九四年七月）

「康豊本『平家物語』の諸問題」（『同志社国文学』四一号、一九九四年一月）

「京師本『平家物語』の位置」（山下宏明編『軍記物語の生成と表現』和泉書院・一九九五年三月）

「いくさがたりと記録」（『国文学解釈と教材の研究』一九九五年四月）

「『平家物語』と『保暦間記』―四部本・盛衰記共通祖本の想定―」（『中世文学』四〇号、一九九五年六月）

「語り物と歴史―平家物語を中心に―」（『講座日本の伝承文学・三 散文文学『物語』の世界』三弥井書店・一九九五年一〇月）

「『平家物語』の「時よくなりぬ」―「引用」の問題にふれて―」（『国語教室』五七号、大修館・一九九六年二月）

「動乱期の記録と文学」（『講座日本文学史・四 変革期の文学Ⅰ』岩波書店・一九九六年三月）

「四部本『平家物語』最終的改作の輪郭」（『青山語文』二六号、一九九六年三月）

「女院の三つの語り―建礼門院説話論―」（水原一編『古文学の流域』新典社・一九九六年四月）

「四部本『平家物語』灌頂巻の改作―『宝物集』の引用などをめぐって―」（『宝物集研究』一号、一九九六年五月）

「折敷に乗った婆羅門僧正」（『いずみ通信・中世編・一九九六年版』和泉書院・一九九六年一〇月）

「『保暦間記』の歴史叙述」（『伝承文学研究』四六号、一九九七年一月）

「物語生成への説話・伝承の参加」（『軍記文学研究叢書五・平家物語の生成』汲古書院・一九九七年六月）

「有王と鬼界が鳥」（『延慶本平家物語考証・四』新典社・一九九七年六月）

「季仲・忠雅先例話の意味」 同前

「転換期の文学」（アエラムック『平家物語がわかる』朝日新聞社・一九九七年二月）

「『朝敵』以前―軍記物語における〈征夷〉と〈謀反〉―」（『国語と国文学』七四卷一一号、一九九七年二月）

「建礼門院説話続論―中世の女性説話として―」（『軍記物語の窓』和泉書院・一九九七年二月）

「建礼門院をめぐる噂と物語」（『国文学解釈と教材の研究』一九九八年四月）

「屋島合戦と「八島語り」についての覚書」（『青山学院大学総合研究所人文学系研究センター研究叢書・二二号、ドラマツルギー

の研究』一九九八年七月）

- 「『平家物語』の注釈的研究 近代」（『軍記文学研究叢書七・平家物語批評と文化史』汲古書院・一九九八年十一月）
 「翻刻『みぞち物語』」（『青山語文』二九号、一九九九年三月）
 「後白河院と『日本第一犬狗』」（『明月記研究』四号、一九九九年十一月）
 「延慶本と長門本の関係」（『長門本平家物語の総合研究・第三卷 論究篇』勉誠出版・二〇〇〇年二月）
 「『みぞち物語』考」（『青山語文』三〇号、二〇〇〇年三月）
 「憑依する悪霊―軍記物語の天狗と怨霊に関する試論―」（『青山語文』三二号、二〇〇一年三月）
 「合戦のルールとだまし討ち」（『軍記と語り物』三七号、二〇〇一年三月）
 「義王の選択―『ミヤタテ』の語義、そして遊女の娘の人生―」（『日本文学』五〇巻九号、二〇〇一年九月）
 「後鳥羽院と将棋―鎌倉初期の駒落ち将棋のことなど―」（『遊戯史研究』一四号、二〇〇二年二月）
 「実盛の『怨み』（『鍬仙』五〇九号、二〇〇二年二月）
 「敵討ちの文学としての『曾我物語』」（『国文学解釈と鑑賞別冊 曾我物語の作品宇宙』至文堂・二〇〇三年一月）
 「組み討ちをする武士達―真光故実から―」（『湘南文学』一六号、二〇〇三年一月）
 「異能の悪僧達―延慶本『平家物語』橋合戦の読み方―」（『福田晃編『伝承文化の展望―日本の民俗・古典・芸能―』三弥井書店・二〇〇三年一月）
 「録音再録―義仲・義経像の形成―都鄙の交錯―」（『秋季公開講座『平家物語の世界』城西国際大学・二〇〇三年十一月）
 「盛俊の耳と首―延慶本『平家物語』『越中前司盛俊被討事』私注―」（『青山語文』三三号、二〇〇三年三月）
 「平家物語と在地伝承―小坪坂合戦をめぐる―」（『国文学解釈と教材の研究』二〇〇三年九月）
 「講演要旨」『平家物語』合戦談のリアリティー―橋合戦を中心に―（京都女子大学宗教文化研究所『研究紀要』一七号、二〇〇四年三月）
 「復讐の論理―『曾我物語』と敵討―」（『京都語文』一一号、佛敎大学国語国文学会・二〇〇四年十一月）
 「フェア・プレイとだまし討ち」（『歴史・文化ガイド 源義経の時代』日本放送出版協会・二〇〇四年二月）
 「『馳組戦』考」（『同志社国文学』六二号、二〇〇五年三月）
 「祇王は清盛に翻弄されたのか」（『国文学解釈と鑑賞』二〇〇五年三月）

- 「七騎落伝承の展開」(『鍊仙』五四四号、二〇〇六年四月)
- 「兵の道」・「弓箭の道」考(武久堅編『中世軍記の展望台』和泉書院・二〇〇六年七月)
- 「平家物語」における語り手の形成(『文学』隔月刊八卷一号、岩波書店・二〇〇七年一月)
- 「日本古典文学と『渋谷金王丸』(白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 特別展図録『伝説のつわもの渋谷金王丸』二〇〇七年一月)
- 「平家物語」の「おこり」(『国語と国文学』八四卷二号、二〇〇七年二月)
- (録音再録)「平家物語」に描かれた三浦一族(『三浦一族研究』一一号、二〇〇七年三月)
- 「武士道」論と軍記物語研究―武士観の問題を中心に―(『軍記と語り物』四三号、二〇〇七年三月)
- 「京師本『平家物語』と語り」(『伝承文学研究』五六号、二〇〇七年五月)
- 「日本中世文学研究の内外―『平家物語』と東アジア」(青山学院大学文学部日本文学科編『海を渡る文学―日本と東アジアの物語・詩・絵画・芸能―』新典社・二〇〇七年八月)
- 「平家物語―共存する複数の『平家物語』」(『国文学解釈と教材の研究』臨時増刊号、二〇〇七年八月)
- 「万華鏡の中の建礼門院」(『鍊仙』五六五号、二〇〇八年二月)
- 「解題 延慶本平家物語」(『大東急記念文庫善本叢刊中古中世篇・別巻一 延慶本平家物語・六』汲古書院・二〇〇八年五月)
- *Figures du samouraï dans l'histoire japonaise Depuis *Le Dit des Heihé* jusqu'au Bushidô, Annales (アナル。フランス) 六三卷四号、二〇〇八年九月
- (原題「『平家物語』における武士の形象と武士道」Annales (アナル。フランス) 六三卷四号、二〇〇八年九月)
- 「滝口入道」の武士観(『新日本古典文学大系明治編・月報二六』岩波書店・二〇〇九年三月)
- 「景清の明暗」(『鍊仙』五八一号、二〇〇九年六月)
- 「平徳子」(『歴史読本』五四卷一二号、二〇〇九年十二月)
- 「武士道」研究の現在―歴史的語彙と概念をめぐって―(小島道裕編『武士と騎士』思文閣出版二〇一〇年三月)
- 「軍記」概念の再検討(佐伯真編『中世文学と隣接諸学三 中世の軍記物語と歴史叙述』竹林舎・二〇一一年四月)
- 「歴史学の視点と文学研究の視点―『武士的価値観』を中心に―」(千明守編『平家物語の多角的研究―屋代本を拠点として―』ひつじ書房・二〇一一年十一月)
- 「梶原父子の栄光」(『鍊仙』六〇九号、二〇一二年一月)

「ひとつはちす」考（『青山語文』四二号、二〇一二年三月）

「日本人にとって〈異国〉とは、〈合戦〉とは何か」（青山学院大学文学部日本文学科編『日本と〈異国〉の合戦と文学』笠間書院二〇一二年一〇月）

「熊谷直実・父性の変貌」（『国立劇場第二八五回歌舞伎公演解説書』二〇一三年一〇月）

「軍神」（いくさがみ）考（『国立歴史民俗博物館研究報告』一八二集、二〇一四年一月）

「日本人の「武」の自意識」（渡辺節夫編『近代国家の形成とエスニシティ』勁草書房・二〇一四年三月）

「翻刻・紹介『倭国軍記』（『青山語文』四四号、二〇一四年三月）

「義貞軍記」と武士の価値観（『アジア遊学』一七三 日中韓の武將伝』勉誠出版・二〇一四年三月）

鎌倉時代の将棋倒し」（『遊戯史研究』二六号、二〇一四年一〇月）

「平家物語」は「軍記」か（『文学』隔月刊一六卷二号、岩波書店・二〇一五年三月）

「平家物語」と鎮魂（日下力監修、鈴木彰・三澤裕子編『いくさと物語の中世』汲古書院・二〇一五年八月）

「太平記」の「良将」に関する覚書（『太平記』をとらえる・二 笠間書院・二〇一五年一〇月）

「軍記物語と鎮魂」（『仏教文学』四一号、二〇一六年四月）

「〈異国襲来〉の原像―塙保己一『螢蠅抄』から」（井上泰至編『近世日本の歴史叙述と対外意識』勉誠出版・二〇一六年七月）

「日本における戦争の文学と「軍記物語」（日本語。『日本文学研究』二六号、北京日本学研究センター編・学苑出版社（中国）

二〇一六年一〇月）

「解題 平家物語」（『日本文学全集・九 平家物語』河出書房新社二〇一六年二月）

「平家物語」における男色」（『青山語文』四七号、二〇一七年三月）

「熊谷・敦盛説話の近世的変容―父子関係を中心に―」（青木敦編『世界史のなかの近世』慶應義塾大学出版会・二〇一七年三月）

「延慶本『平家物語』独自記事の位置―文覚・横笛・維盛記事を中心に―」（『かがみ』四七号、大東急記念文庫・二〇一七年三月）

「軍記物語と「武士道」の間」（『季刊悠久』一四九号、二〇一七年五月）

「平家物語」は鎮魂の書か」（松田浩・他・編『古典文学の常識を疑う』勉誠出版・二〇一七年五月）

「河野氏の歴史と日本の歴史―『予章記』から考える―」（『中世文学』六二号、二〇一七年六月）

〔延慶本『平家物語』と紀州地域〕（『アジア遊学』二一 根来寺と延慶本『平家物語』 勉誠出版・二〇一七年六月）
〔軍記物語和戦争文学〕（中国語。覃思遠・訳。『日語学習与研究』一九〇号、中国・北京《日語学習与研究》雜誌社・二〇一七年六月）

〔「異国合戦」の文学史〕（『日本文学の展望を拓く・四 文学史の時空』笠間書院二〇一七年一月）

〔神功皇后説話の屈折点〕（『日本文学』六七卷一号、二〇一八年一月）

〔「鎮魂」と「調伏」〕（駒澤大學佛教文学研究』二二号、二〇一九年二月）

〔軍記物語研究の起源と現在〕（『日本文学研究ジャーナル』一一号、二〇一九年九月）

〔「耳塚」と「耳堂」の史実と伝承〕（『青山語文』五〇号、二〇二〇年三月）

〔「平家物語」古態論と延慶本〕（『軍記物語講座第二卷 無常の鐘声 平家物語』花鳥社・二〇二〇年七月）

〔災害と文学〕（『東アジア文化講座第四卷 東アジアの自然観―東アジアの環境と風俗―』文学通信・二〇二一年三月）

〔敦盛と熊谷は和解したのか〕（『観世』八八卷三号、二〇二二年五月）

〔頼政と「扇の芝」〕（『国立能楽堂』四五四号、二〇二二年一〇月）

〔延慶本『平家物語』研究の軌跡と課題〕（『延慶本平家物語全注釈・別巻』汲古書院・二〇二二年二月）

○注釈（共稿）早川厚一・生形貴重両名との共同研究

〔四部合戦状本平家物語評釈（一）〕（『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』二〇卷二号、一九八四年一月）

〔四部合戦状本平家物語評釈（二）〕（『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』二二卷一号、一九八四年五月）

〔四部合戦状本平家物語評釈（三）〕（『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』二二卷二号、一九八五年一月）

〔四部合戦状本平家物語評釈（四）〕（『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』二二卷一号、一九八五年五月）

〔四部合戦状本平家物語評釈（五）〕（私家版・一九八五年二月）

※以上（三）（五）により、第十二回財団法人日本古典文学会賞・共同受賞。一九八六年六月

〔四部合戦状本平家物語評釈（六）〕（私家版・一九八六年六月）

〔四部合戦状本平家物語評釈（七）〕（私家版・一九八七年二月）

『四部合戦状本平家物語評釈（八）』（私家版・一九九一年九月）

『四部合戦状本平家物語評釈（九）』（私家版・一九九六年十二月）

○項目執筆・部分執筆

『研究資料日本古典文学②歴史・軍記・歴史物語』（明治書院一九八三年六月）。『平家物語』のうち、「成立」「諸本」及び「祇王」

「敦盛最期」など）

「国文学研究資料館蔵『平家物語』関係マイクロ資料解題」（『平家物語と語り』三弥井書店・一九九二年一〇月。「語り本・写本」

「源平盛衰記」「その他・関連作品」など）

『日本古典文学大事典』（明治書院一九九八年六月。「源平盛衰記」「吉備大臣入唐絵巻」）

『「明月記」（治承五年正月を読む）』（明月記研究会編、『明月記研究』五号、二〇〇〇年十一月。「正月一四日」）

『幸若舞曲研究・別巻 事典・総索引』（三弥井書店・二〇〇四年六月。「腰越」）

『源平合戦事典』（吉川弘文館・二〇〇六年一二月。「平家物語」「馬筏」「名虎」「馳組戦」「判官鼯鼠」「行隆沙汰」）

『千葉県の歴史 通史編 中世』（千葉県・二〇〇七年三月。第一編第四章第四節「文芸にあらわれた房総武士の諸相」）

小峯和明・金英順編『海東高僧伝』（平凡社東洋文庫・二〇一六年九月。「玄恪・玄照・亡名二人」）

○書評・時評・学界展望など

〔展望〕「平家物語研究、現在の話題と課題」（『国文学解釈と鑑賞』一九八一年五月）

書評・堀竹忠晃著『平家物語論序説』（『論究日本文学』四九号、一九八六年五月）

書評・小林美和著『平家物語生成論』（『日本文学』三六卷四号、一九八七年四月）

書評・武久堅著『平家物語成立過程考』（『伝承文学研究』三五号、一九八八年五月）

書評・永積安明著『平家物語の構想』（『日本文学』三八卷一二号、一九八九年一二月）

書評・水原一著『中世古文学像の探究』（『国語と国文学』七四卷一、一九九七年一月）

〔時評〕「大学での古典文学教育」（『日本文学』四六卷一、一九九七年一月）

- 〔展望〕「平成八年国語国文学界の展望・軍記物語（平家物語）」（『文学・語学』一五六号、一九九七年一〇月）
- 書評・日下力著『平治物語の成立と展開』（『日本文学』四七卷二号、一九九八年二月）
- 書評・兵藤裕己著『平家物語の歴史と芸能』（『国文学』四五卷七号、二〇〇〇年六月）
- 書評・武久堅著『平家物語発生考』（『国語と国文学』七七卷九号、二〇〇〇年九月）
- 書評・日下力著『平家物語の誕生』（『国文学研究』一三六集、二〇〇二年三月）
- 書評・五味文彦著『書物の中世史』（『日本歴史』六七九号、二〇〇四年二月）
- 書評・大津雄一著『軍記と王権のイデオロギー』（『日本文学』五四卷九号、二〇〇五年九月）
- 書評・徳田和夫編『お伽草子百花繚乱』（『日本文学』五八卷六号、二〇〇九年六月）
- 書評・樋口大祐著『「乱世」のエクリチュール―転形期の人と文化―』（『説話文学研究』四五号、二〇一〇年七月）
- 書評・高橋昌明著『平家の群像』（『歴史評論』七二六号、二〇一〇年一〇月）
- 〔解説〕「伊勢平氏から清盛へ」（高橋昌明『清盛以前―平凡社ライブラリー版・二〇一一年十二月〕
- 書評・佐倉由泰『軍記物語の機構』（『国語と国文学』八九卷一号、二〇一二年一月）
- 書評・今井正之助著『太平記秘伝理尽鈔』研究』（『日本文学』六一卷一号、二〇一二年一月）
- 書評・美濃部重克著『観想 平家物語』（『説話文学研究』四八号、二〇一三年七月）

○CD解説

- 「平家物語 祇園精舎」（NHKサービスセンター・二〇〇二年五月）
- 「橋合戦・入道死去」（NHKサービスセンター・二〇〇三年五月）
- 「実盛最後・福原落」（NHKサービスセンター・二〇〇四年五月）
- 「木曾最後・敦盛」（NHKサービスセンター・二〇〇五年五月）
- 「那須与一・先帝身投」（NHKサービスセンター・二〇〇六年五月）
- 「腰越・大原御幸」（NHKサービスセンター・二〇〇七年五月）
- 「文覚荒行・能登最後」（NHKサービスセンター・二〇〇八年五月）

○対談・座談会

「座談会・虚構のリアリテイ」（安藤宏司会。風間誠史・高田祐彦・山中玲子・佐伯真一。『文学』隔月刊八卷一号、岩波書店・二〇〇七年一月）

「対談・「いくさ」と文学」（佐伯真一・井上泰至『文学』隔月刊二六卷二号、岩波書店・二〇一五年三月）